

## 大会レポート（担当 橋本）

10/19（土）第1回下呂市オリエンテーリング大会

10/20（日）第61回中日東海ブロックオリエンテーリング大会  
（ねんりんピック岐阜2020リハーサル大会兼第12回東海選手権）

### はじめに

第61回中日東海ブロックオリエンテーリング大会は、下呂市役所、地元四美地区等の皆様のご支援を得て終了することができました。今回の大会を振り返り「ねんりんピック2020岐阜オリエンテーリング交流大会」につなげるため、大会を振り返り成果と課題についてまとめておきたいと思います。



### 大会開催のねらいと評価について

岐阜県オリエンテーリング協会としては、下呂市の南飛騨健康増進センターや皇樹の杜を中心に地域の人々にオリエンテーリングを楽しんでもらったり、今後も継続して地域外から多くのオリエンティアを呼び込んだりすることで、地域の活性化に貢献したいと考えています。ちょうど「ねんりんピック岐阜2020」は、その起爆剤

として絶好の機会と考えています。

南飛騨健康増進センターの一带は山林の大部分が県有地、市有地であるので利用許可が得やすいという利点があります。急峻ではありますが、オリエンテーリングには十分使える変化に富んだ地形で、県内としては良質のトレインです。ただ、交通の便は良いとはいえ、県内的には高速道路とも距離があり、また、自家用車以外でのアクセスが難しいのが難点です。そのため、できるだけ参加者を増やすために、中日東海大会単日開催ではなく2日間大会として開催することとしたところです。

第1回下呂市大会は、下呂市民向けに初めての人でも参加できるように、キュアラの丘を中心とした、集落、樹木展示園、農地の間を走る小道を使ってコースを設定しました。初心者には迷子になる心配などがなく安心して



回れるコースであり、競技者にとってはスプリント競技として十分楽しんでもらえるコースともなりました。

特に下呂市内の小中学生に参加して貰いたく、初心者向け要項を全児童生に配布しましたが、結果的には、前日の下呂市大会に53名、中日東海大会には96名の参加がありました。目標達成とは言えませんが、下呂で初めての開催という点と遠隔地のハンディを思えばまあまあ健闘と言えます。ねんりんピック岐阜2020への希望が見えたというところです。しかし、遠来の参加者ばかりであり、地元からの参加者が皆無でありました。下呂市大会も初心者向けに用意したのですが、実際にはスプリント競技大会になってしまいました。まだ、地元でオリエンテーリングを根付かせるという目標達成への道のりは遠いものがありました。

### 参加者、表彰者、コース

- ・クラス別の人数等（資料）

参加者の内訳をみると下呂市大会、

第61回中日東海ブロックオリエンテーリング大会 参加人数と優勝タイム

男子			女子		
クラス	人数	優勝タイム	クラス	人数	優勝タイム
M21A	37	25分47秒	W21A	17	35分30秒
M30A	2	31分39秒	W40A	2	47分21秒
M40A	4	33分59秒	W60A	2	44分51秒
M50A	7	25分12秒	W70A	1	53分15秒
M60A	9	29分58秒	W21B	1	43分33秒
M70A	6	28分29秒	W40B	1	32分33秒
M80A	1	56分31秒	W60B	1	41分16秒
M12	1				
M60B	2	30分24秒			
OAL	1				
OAS	1				
	71			25	

中日東海大会ともに M21A,W21A の参加が多い状況です。競技志向の強い層が参加してくれたということになります。他のクラスは競技人口がもとも少ないこともありますが期待したほど多くはありませんでした。ただ、60代以上の競技者もある程度参加して頂いているので、ねんりんピックに向けては期待が持てるものです。

また、Bクラスにも少ないながらニーズがあるようです。今年のねんりんピック和歌山大会参加者は、日常的にオリエンテーリングを競技として参加している人ばかりでなく、しばらくオリエンテーリングを休止していたがねんりんピックを機に再び競技に復帰するという方も多く見られました。現在活動休止中の県協会からも参加があります。その方のためにも参加しやすい B クラスは必要になると思われれます。

参加者募集について、少しでも多くの方にエントリーしていただくために、事前申し込みについては、Japan-O-entry（オリエンテーリング大会WEBエントリーサイト）、メール申し込み、Fax、郵送と色々な手段を用意して参加者を増やそうと考えましたが、ほとんどが Japan-O-entry からの申込でありました。これは、参加者にとっても主催者にとってもメリットが大きく、今後もこれを中心として

いきますが、他の手段もまだ残しておく必要があります。さらに大会会場での直接受付も行くと良いとおもいます。また、ねんりんピック2019和歌山での参加者をつながりを作っておきたいと考えています。

### トレイン、コース、私有地、安全対策

中日東海大会のトレインとなった部分は、傾斜が急な上に岩石、湿地、倒木などで走りにくい足下です。特に悪天候の場合は滑りやすく、増水によって川が渡れない状態になることもあります。

今回は天気予報の通り18日金曜日から19日にかけて雨天となりました。川の増水で渡渉するのが危険を伴う状態で、スタート地区を変更せざるを得ませんでした。これに伴いコース距離が短縮となりました。

熊や猪などの獣害対策のため、下呂市の方でホーンや爆竹などを鳴らすなど対策をとっていただきました。交通についての安全対策や道迷い等の対策についても事前に警察と打ち合わせを行い承認を得ることができました。ただ、開催直前までコースの修正などの変更点について下呂市、警察と十分な情報共有ができていなかった点は改善が必要となります

### 大会会場

下呂市大会の会場としては南飛騨健康増進センターの実践道場、中日東

海大会は皇樹の杜イベント広場特設会場を利用させていただきました。

中日東海ブロック大会の特設会場は、ステージ以外の建物がない状態のところにテントや仮設トイレ等設定していただきましたが、前日の雨で広場は水が染み出し中央に水たまりができるような状態となりました。しか



しながら当日は天候が回復し、何とか問題なく開催できましたが、来年は、雨の場合も想定して対応を考えておく必要があります。

トイレについては、仮設トイレを設置してもらいましたが、不足はなかったと思われます。

更衣テントは男女とも用意してあり、スペースも大きく使いやすいものでした。男子について通常の大会では用意されないことが多いので好評でありました。ただ、女子は、入り口が開くたびに中が見えてしまうのではないかという声がありました。

### 運営について

競技に関わるスタッフとしては全部で19名（岐阜県協会より15名、

愛知県協会 2 名、名大 OLC2 名) が関わりました。それに加えて直接競技に関わる部分で下呂市のスポーツ推進員の方に初日 5 名、2 日目 7 名にスタートとフィニッシュを助けていただきました。5 月にスタッフ養成講習会兼インストラクタ養成講習会を開催して、下呂市スポーツ推進員の方にも参加していただきましたが、実際、大会運営に携わって頂いたことは、大変良かったと思います。このように、ねんりんピック 2020 本番に向けて経験を積んでいただく機会を設けることは有効であると考えます。

### 収穫祭と初心者向け体験

10/20(日)中日東海大会の当日は、山之口川流域フェスタ(収穫祭)も開催されました。例年は、もう一週前に開催されるどころ、この大会に合わせていたただいたところです。地元の好意で、収穫祭のキノコ汁無料券と日帰り温泉施設である「しみずの湯」の割引券を配布することができました。これは、大会参加者に大変喜ばれたようです。14:00 開始予定の表彰式を早めて行おうとしましたが、会場に残っている参加者が少なく早めることができませんでしたが、表彰式開始の時刻が近づくと収穫祭の会場から続々とオリエンティアが戻ってきました。

「しみずの湯」の利用についても

19日は、14人、20日は54人と利用していただけました。

来年は、収穫祭とは日時がずれると思われるかもしれませんが、参加者にとっては、地元の味が楽しめるようなおもてなしは、ありがたいと思いますし、地元の方にもお店目当てで会場を覗いていただくことを考えると良いかと思えます。

なお、収穫祭のイベントの一つとしてもオリエンテーリング体験会を開催しました。下呂市レクリエーション協会から3名の方がスタッフをされました。最初に岐阜県協会より運営について説明を聞いてもらい、あとは、3名の方にお任せすることができました。体験会は111名の参加があり、この内のほぼ半数は、中日東海大会の参加者だったようです。

### 地図、コース作成

地図については、一次調査、二次調査については岐阜県オリエンテーリング協会橋本、牧ヶ野が進め、最終調査と地図調整と印刷については、YMOE 社にお願いしました。プロの技術とノウハウはさすがで、競技については地図へのクレームはありませんでした。大会ぎりぎりまで地図の修正、仕上げに尽力いただきました。

### 試走

8月17日に試走を東海中学、高校の皆さんにお願いしました。本来なら、

中日東海ブロック大会に大勢参加していただくつもりでしたが、大会当日は試験前で参加いただけないということで、試走に協力していただきました。暑い中でしたが、貴重な情報、意見を得ることができました。

### コース設定

今回のトレインは、険しさと、足元の悪さ、走行可能度の点からコース設定は非常に難しいものでした。糸井川さんをお願いしましたが、Aクラスについては、ミドル競技のガイドラインに合致すること、登距離をあまり増やさずスピードが出せるコースにすることなどプランナーとして苦労されましたが、結果を見ると男子の上級者には、ほぼ妥当なコースであったと思われませんが、女子には厳しかったようです。

### 前日準備と当日の進行



事前の設置等は、予定通りかそれ以上に進めることができました。当日の進行も順調にほぼ予定通りに進行がなされました。

いくつかの大きな問題がありまし

た。一つには、コントロールは設置されていたが、フラッグだけがつけ忘れたところが2箇所あり一部の参加者が影響を受けました。対象クラスとスタート時刻から類推してM75Aは、影響が大きかったことは明らかでしたが、他のクラスは、順位そのものには影響がなかったと考えられましたのでM75Aだけは参考記録としました。なお、表彰式はリハーサル大会ということであるので、事情説明の上行わせていただきました。

もうひとつは、表彰式での痛恨のミスです。Bクラスの表彰がすっぽり抜け落ちてしまいました。誤りを表彰式終了後指摘されて初めて気づくという失態です。計算センターと表彰担当の連携・確認のミスでした。口頭での確認でなくチェックリストなどを用意し確実に脱落がないかチェックすることが必要でした。

### 成果と課題

次年度ねんりんピック2020岐阜開催に向けてです。

### <運営の組織化と効率化>

ねんりんピック2020岐阜については、ねんりんピックの部については、30チーム以上は出てもらうことを目標として、一般併設大会と合わせて200～300名の参加者を集めたいと思います。もちろん、もっと多いことを目指したいと思います。

今回のリハーサル大会を踏まえて、大会を成功させるための課題として、準備がスケジュールに余裕を持って進められることが何より重要です。そのために、運営の組織を見直し、効率よく確実に業務を遂行するための体制を作る必要があります。かつて、岐阜県協会では、全日本オリエンテーリング大会を始め、数多くの公認大会や国際大会の運営に携わった実績はありますが、協会の減少と高齢化、競技者を続けている会員の現象で運営力は落ちています。少人数での体験会などの運営実績はありますが、大きな大会運営の実質的な運営からは遠ざかっています。ねんりんピックということ踏まえて若い力を集めることと現有勢力の意識改革を図ることが必要となります。

#### < 民有地と利用許可 >

次年度トレインとなる部分は、民有地が多くあります。そのため、できるだけ早い時期に使用の許可を得る必要があります。そして未調査の部分の一次調査、二次調査を進めておきたいと思います。3月末にはそこまでは進めることを目標としたいと思います。

#### < 参加者の確保のために >

今年のと歌山の場合は、ねんりんピッククラスの参加者は20チーム60人でした。本来なら全部の都道府県と政令指定都市を合わせて83と

なるので、もっと増やしたいと思えます。また、参加された県には、来年も出てもらえるように働きかけ、さらに上積みをするために、今年度参加していない県や政令市に参加してもらえるような働きかけをしていきたいと思えます。

都道府県対抗の方法についても、改善を図りたいと思えます。と歌山大会では、距離別に3つのコースを用意し、チームの3人がいずれかに出場しそれぞれの順位を得点化し合計点で順位を決めるという方式でしたが、男女が同じクラスで競うことや異なる年齢層、技術レベルの者が一つのクラスで競い合うというのは無理があります。

一般交流種目（併設大会）には地元からの参加者も出ていただけるような取り組みが必要と思えます。

地元からの参加者拡大のために今回は市内小、中学校の全児童、生徒に初心者向けチラシを配布し参加を呼びかけましたが地元からの参加はありませんでした。なかなかオリエンテーリングに触れてもらえる機会は少ないので、地元で誰でも気軽に参加してもらえるオリエンテーリング体験会や講座などを開催することや第2回下呂市オリエンテーリング大会の開催などで地元のみなさんの関心を高めていけると良いと思えます。